ごあいさつ

「市民の声を羅針盤」とし さらに進歩する南九州市へ

南九州市長 塗木 弘幸

新年おめでとうございます。輝かしい平成28年の幕開けです。

このたび南九州市の舵取りを担うことになりました。市民の皆様のご期待を思うとき、その責任の重さをひしひしと感じます。市民のご期待に沿うべく最大限の努力を尽くし、力強く前進する南九州市の建設に誠心誠意取り組んでまいります。

さて、これまで霜出市政のもと8年間着実に進歩を遂げ、今日の南九州市となりました。これまでの歩みを止めることなく、その方向性を保ちながら、さらに進歩する南九州市を築いてまいります。

平成28年度は、本市の最上位に位置する総合計画のまとめの時期に入ってまいります。そして平成29年度は第1次総合計画のまとめの年であり、併せて第2次総合計画の策定の年となります。私はこの2年間がとても重要な年であり、次の総合計画では南九州市の進路が明確に示され、あるべき姿が見えてくると思っております。その進路を指し示すのが市民の皆様の声であると思っております。「市民の声を羅針盤」としながら皆様のご意見をお聞きし南九州市を建設してまいります。まずは皆様の声をお聞かせいただき、また、その声を聞きに足を運びたいと思います。

今後の取り組みについて次のように考えております。

まず、行財政の改革についてでありますが、これは市政運営の中でも最も重要な部門であります。健全な財政運営があって初めて行政の運営も順調に行えるのであって、今後一層厳しさを増す財政運営を考えますと行政改革の歩みをとめることはできません。これまで進めてきた行政改革の推進を継続してまいりますが、特に公共施設の運営見直しなど無駄を省いていく必要性を感じております。

次に産業振興については、本市は農業のまちであり、この農業の振興なくして本市の発展は望めません。私は先頭に立って、本市の農業振興に努めてまいります。特に平成29年度は茶の銘柄統一もなされ、「知覧茶」として展開されてまいりますが、この銘柄統一に向けて茶の販売促進など関係者と一体となって取り組んでまいります。

次に進行を続ける少子高齢化対策として、住みやすいまちづくりを進めたいと思います。若い世代に対しては、どのような施策を講じれば若い子育て世代の人が「南九州市に住みたい」と思うのか、また、これからの南九州市を担っていく若い世代が「住みやすいまち」とはどのようなまちなのか、など若い世代の声を聞きながら新しいまちづくりを進めてまいります。

次に、これまでの南九州市を築いてくださった先輩の方々の福祉はどのように行うべきか、高齢者の方々が生きがいを持って生活できるまちはどのようなまちなのか、など皆様の声を聞きながらこれからの南九州市を建設してまいります。

平成28年は、南九州市の新しい一歩であり、その一歩は市民の皆様と一緒に刻む一歩であります。新年を迎え、大きな夢と希望を持ち、市民の皆様の負託に応えるべく最大限の努力を行ってまいります。市民の皆様のご協力、ご理解のほどなにとぞよろしくお願い申し上げ、新年のあいさつといたします。

2016 新年の

新しく厳しい時代を迎え 更なる議会の活性化を目指します

南九州市議会議長 蔵元 慎一

新年、明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、輝かしい新年を迎え健やかにお過ごしのことと存じます。

南九州市議会も７人の新しい議員を迎え、新しいスタートを切りました。市議会議員一同、心新たにして市民の皆様のために邁進していく覚悟でございます。

さて、昨年は例年にも増して異常気象の影響で自然災害の多い年であったように思います。

本市においては、戦後70年という節目の年に、ハワイ・戦艦ミズーリ記念館と知覧特攻平和会館の共同企画展を開催することができました。このような海外での企画展は日本初とのことで画期的なことでございました。

全国茶品評会においては、南九州市が２年ぶり４回目の産地賞を受賞し、「知覧茶」への銘柄統一に向けて一層のはずみがついたところでございます。

また、ＮＰＯ法人頴娃おこそ会が一昨年に引き続き、全国規模の表彰を受賞されたことは大変喜ばしく、県内はもちろんのこと、全国の地域おこしのモデルとして、さらに活躍を期待するものでございます。

さらに、昨年は三つの誘致企業との立地協定が締結されたことは、大変喜ばしく市当局、関係機関・団体のご努力に敬意を表するものでございます。

日本の人口が減少しているなかで、本市においても少子高齢化、人口減少に歯止めがかかりません。また、ＴＰＰ環太平洋連携協定が大筋合意され、本市農業はまさに正念場に入りました。これからは海外を見据えた農業、畜産、観光業などの振興策について共に模索していかなければなりません。

また、高齢化などによる社会保障費の増大、空家対策などさまざまな課題が山積しているなかで市の財政は地方交付税の漸減期間に入り、ますます厳しい運営を迫られています。

これからは執行機関の政策、予算の執行など、議会としてこれまで以上に厳しく審議し、議決していかなければなりません。そして市民の皆様に対しましては市政について説明の時代から説得の時代に変わってきていると考えております。議会としても知恵を絞りながら市政の監視役としての役割をしっかりと果たさなければなりません。

改選後、議会構成も変わった中で、議会活動のさらなる活性化に取り組みながら、活力と魅力のある南九州市を目指して皆様の負託に応える所存でありますので、市議会に対しまして、本年も変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

これからの市政を託す
南九州市長 市議会議員決まる

投開票日：12月13日

投票率69・95％

①氏名(敬称略)
②職業
③年齢(選挙日現在)
④所属・新現別
⑤地域

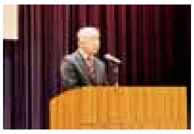
任期満了に伴う南九州市長選挙と市議会議員選挙が平成27年12月13日に投開票が行われ、元市議会議員3人が立候補した市長選では、塗木弘幸氏が当選。また、22人が立候補した市議選では次の20人が当選しました。

市長

①塗木 弘幸
②会社役員
③62歳
④無所属・新
⑤知覧町東別府

塗木新市長 初登庁

12月24日、職員が出迎える中、塗木市長が市役所に初登庁し、就任式で市職員へのあいさつが行われました。



市議会議員（20人）
―議席順―

①大倉野 由美子
②政党役員
③65歳
④日本共産党・新
⑤川辺町下山田

①米満 孝二
②無職
③64歳
④無所属・新
⑤頴娃町別府

①大倉野 忠浩
②農業
③53歳
④無所属・新
⑤川辺町下山田

①川畑 実道
②無職
③60歳
④無所属・新
⑤頴娃町御領

①日置 友幸
②無職
③26歳
④無所属・新
⑤川辺町上山田

①吉永 賢三
②農業
③40歳
④無所属・現
⑤川辺町神殿

①内園 知惠子
②農業
③65歳
④日本共産党・現
⑤知覧町瀬世

①西 次雄
②農業
③66歳
④無所属・現
⑤川辺町永田

①伊瀬知 正人
②農業
③65歳
④無所属・現
⑤頴娃町牧之内

①大久保 太智
②保険業
③43歳
④無所属・新
⑤川辺町平山

①鮫島 信行
②商業
③63歳
④無所属・新
⑤知覧町郡

①竹迫 毅
②農業
③74歳
④無所属・現
⑤知覧町南別府

①今吉 賢二
②会社役員
③60歳
④無所属・現
⑤頴娃町郡

①濵田 茂久
②農業
③68歳
④無所属・現
⑤頴娃町別府

①山下 つきみ
②会社員
③62歳
④無所属・現
⑤川辺町野崎

①松久保 正毅
②会社役員
③62歳
④無所属・現
⑤知覧町西元

①菊永 忠行
②鍼灸師
③64歳
④無所属・現
⑤知覧町塩屋

①蔵元 慎一
②商業
③55歳
④無所属・現
⑤知覧町郡

①加治佐 民生
②農業
③63歳
④無所属・現
⑤頴娃町上別府

①満留 秀昭
②農業
③58歳
④無所属・現
⑤川辺町清水

南九州市議会 議長・副議長 決定

平成27年12月25日に開催された臨時議会において、議長・副議長が決定しました。

議長 蔵元 慎一 議員

副議長 加治佐民生 議員

退任のごあいさつ

前南九州市長　**霜出勘平**

任期：平成19年12月23日
～平成27年12月22日

南九州市政をおあずかりし、8年の歳月が経過しました。これまで市民をはじめ多くの方々のお力添えにより、南九州市の誕生、そして今日まで歩んでくることができましたことに対し、衷心よりお礼申し上げます。

顧みますと平成19年12月に旧頴娃町、旧知覧町、そして旧川辺町が合併し、新市南九州市が華々しく誕生しました。やはり、南九州市は、鹿児島県の食糧供給基地としての期待が大きかったのではないかと思います。その期待に違わず南九州市は、お茶、さつまいも、鶏卵の生産量では日本一の自治体となりました。農業ばかりでなく、全国から訪れる方々に対する「おもてなしの心」でも日本一になろうと心がけてまいりました。その努力の甲斐もあり、現在では南九州市の知名度も少しずつではありますが向上しつつあると思います。

初登庁（平成19年12月25日）

さて、これまで本市のまちづくりにおいては、総合計画の基本理念である「自然豊かで創造と活力に満ちくらしといのちが輝く〝こころ〟やすらぐまち」の実現に向けて取り組んでまいりました。市民の皆様と築き上げてきたこれまでの南九州市を振り返ってみますと、農業面では、お茶、畜産業、さつまいもなどわが町の農畜産物の振興が図られたと思います。その中でもお茶については平成29年度に「知覧茶」として銘柄統一がなされます。このことを契機として、日本一の生産量を誇るわが町のお茶のさらなる振興につながることを期待しております。

交通網の整備では市内の幹線道路の整備をはじめ、市民生活の基礎として交通インフラの整備に努めてまいりましたが、中でも南薩縦貫道は平成28年度には整備が終了する計画であり、今後、産業、観光などの面でも大きな効果が期待されます。南薩縦貫道という大動脈の整備により地域外から多くの人を呼び込み、交流の促進を図ることにより、今後一層の経済の活性化が図られるものと思われます。

福祉面では、子育てしやすい環境の整備に取り組んでまいりました。児童生徒の医療費無料化については、対象を小学生から中学生までと拡大しながら、子育てのしやすい環境整備に取り組んでまいりました。そのほか不妊に悩むご夫婦には特定不妊治療に対する事業などを行ってまいりました。

学校整備も年次計画的に校舎の耐震化工事や大規模改修などに取り組みました。子どもたちの学び舎の整備は徐々に進んでおりますが、まだその道は途中であり、今後も計画的に教育環境の整備に努めなければならないと考えます。

そして、これらの施策を推進する中で課題となってくるのが行財政の改革であります。健全な財政なしに、健全な行政はなしえないと考えますが、じわじわと財政の悪化が忍び寄ってきております。これまで、スリムな行政、スマートな行政を目指してまいりましたが、今後も不断の努力が必要であると感じます。

私は、今期をもって市長としての役目を次の方にバトンタッチいたしますが、市民の皆様には南九州市の発展のためにこれまで以上のご協力をお願いします。また、まちづくりは市民と行政が一体となって行っていくものであり、特に市民の一体化は欠かせないものであります。南九州市民が力を合わせればどのような困難も克服し、発展の道を歩き続けるだろうと確信しております。

これからの南九州市の発展を心から念じ、これまでのご協力に感謝申し上げ、私の退任のご挨拶とさせていただきます。

これまで誠にありがとうございました。

多くの職員に見送られ退庁されました。
（平成27年12月22日）

新旧市長が力強く握手を交わし、南九州市政が引き継がれました。